

# 1

## 秋田市の概要

### 沿革

秋田市の開発は、天平5年（733年）、時の政府が北辺の政治や交易の拠点として高清水の丘に出羽柵、後の秋田城を設置したことにさかのぼります。

中世には、安東氏が現在の土崎地区に湊城を構え、土崎湊は、全国有数の港町として栄え、地域の政治・経済・文化の中心として繁栄しました。

その後、慶長7年（1602年）、佐竹氏が常陸から秋田へ国替えとなり、現在の千秋公園の地に新たに久保田城を築城するとともに、今日の中心市街地の原型となる城下町を建設しました。

明治以降は、県庁所在地として引き続き拠点都市としての機能を担い、明治22年（1889年）に市制施行により面積6.9 km<sup>2</sup>、人口約29,300人、世帯数約6,600世帯の秋田市となり、その後は周辺町村との合併や雄物川放水路の開削、秋田港と秋田運河の改修、工業地帯の造成、秋田新幹線をはじめとする交通運輸機関の整備などにより、市勢はめざましい発展を遂げました。

このような歴史により、北日本、日本海沿岸地域の要となる都市としての機能を培ってきた秋田市は、平成9年（1997年）に中核市に移行、17年（2005年）には旧河辺町・旧雄和町と合併し面積905.67 km<sup>2</sup>、人口336,395人、世帯数133,141世帯の新市となり、今日に至っています。



面積	人口	世帯数	人口密度
906.07 km <sup>2</sup>	302,005 人 男 142,319 人 女 159,686 人	137,320 世帯	333.3 人/km <sup>2</sup>

（令和3年4月1日現在：秋田市情報統計課）

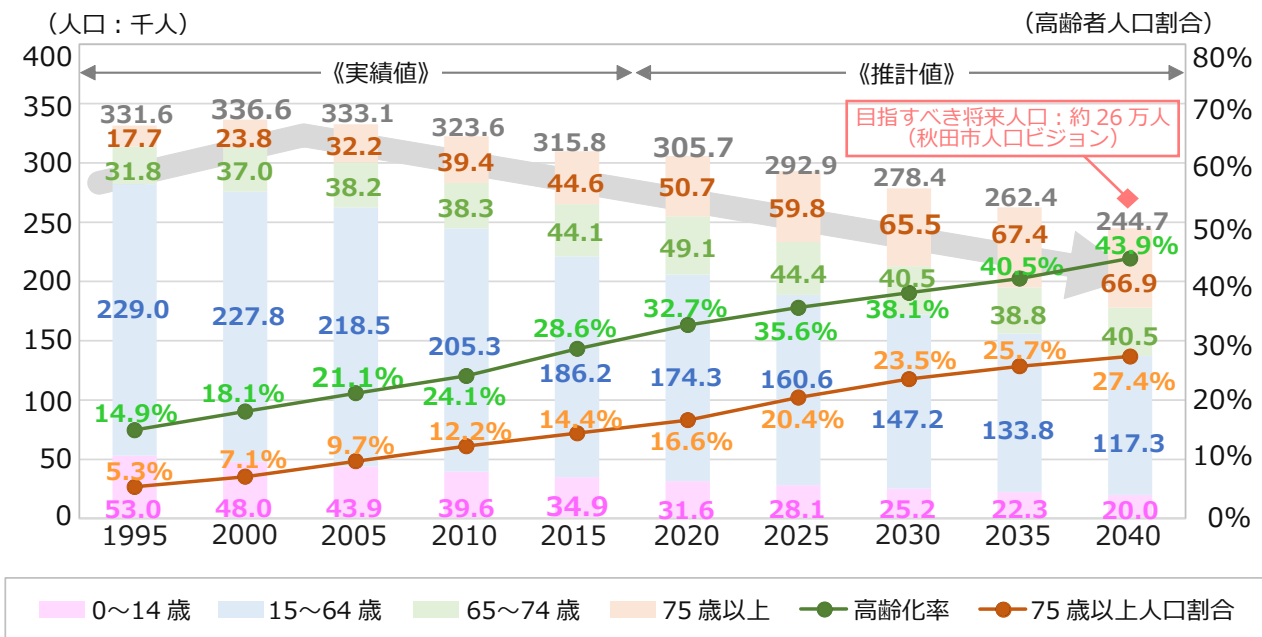
## 各地域の概況

中央地域	中央地域は、秋田駅周辺から官公庁団地までの都心を有し、行政、経済、産業など各種機能が集積し、本市都市機能の中核をなす地域です。 地域の人口：69,534人〔約23.0%〕、面積：約18.1km <sup>2</sup> 〔約2.0%〕
東部地域	東部地域は、土地区画整理や大規模開発による基盤の整った住宅地が広がるほか、高等教育機関が複数立地した地域です。 地域の人口：61,686人〔約20.4%〕、面積：約179.3km <sup>2</sup> 〔約19.8%〕
西部地域	西部地域は、良好な住宅地とこれに隣接した商業地や工業団地を抱え、山林や海をはじめとする豊かな自然を有した地域です。 地域の人口：33,509人〔約11.1%〕、面積：約82.4km <sup>2</sup> 〔約9.1%〕
南部地域	南部地域は、秋田新都市の整備や仁井田地区などでの宅地造成が進み、7地域の中で最も年少人口割合が高く、老年人口割合が低い地域です。 地域の人口：48,499人〔約16.1%〕、面積：約41.7km <sup>2</sup> 〔約4.6%〕
北部地域	北部地域は、重要港湾秋田港、史跡や良質な住宅地、田畑、山林などの自然環境を有し、多様な特性をもつ地域です。 地域の人口：75,474人〔約25.0%〕、面積：約138.6km <sup>2</sup> 〔約15.3%〕
河辺地域	河辺地域は、太平山の豊かな緑や清らかなせせらぎといった自然資源や旧羽州街道沿いの街並みや茅葺民家など地域の歴史を伝える資源に恵まれた地域です。 地域の人口：7,655人〔約2.5%〕、面積：約301.1km <sup>2</sup> 〔約33.2%〕
雄和地域	雄和地域は、秋田空港や空港インターチェンジなどの広域交通環境を有するとともに、観光施設や学術・研究施設など、様々な機能をもつ地域です。 地域の人口：5,648人〔約1.9%〕、面積：約144.5km <sup>2</sup> 〔約16.0%〕

(令和3年4月1日現在：秋田市情報統計課)

## 人口および高齢化率の推移

本市の人口は、平成17年に河辺町・雄和町と合併し、33万人になりましたが、その後は減少傾向にあります。年齢階層人口とその割合については、年少人口（0～14歳の人口）と生産年齢人口（15～64歳人口）が減少傾向にある一方で、老年人口（65歳以上の人口）は増加していくことが見込まれています。



### 【年齢4区分別人口および高齢化率等の推移】

出典：各年国勢調査（1995～2015年）、国立社会保障人口問題研究所（2020年～）  
2005年1月以前のデータは、旧河辺町、旧雄和町を含む  
2015年までの総人口は、年齢不詳人口を含む